

第35回オホーツク中学校バドミントン大会 実施上の留意事項 (新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン)

令和3年5月20日版

1. 基本的な考え方

公益財団法人日本バドミントン協会が作成したガイドラインに準じて、参加者および関係者の健康と安全の確保を最優先して実施する。

2. 感染防止の基本的対策

- (1) 入場制限(無観客試合)を行う。
- (2) 入場者については、『参加までの流れ』をよく読み、次の別紙1～5の中の必要書類を必ず提出すること。ボールペンで記入すること。

【別紙1】 令和3年度オホーツク中学校体育大会参加同意書 【別紙2】 健康管理表 【別紙3】 学校同行者の健康状態報告書 【別紙4】 来場者体調記録表 【別紙5】 健康管理表(大会関係者用)

- (3) 会場に入場できるのは、試合当日に出場する選手および、事前に所定の手続きを経たマネージャー、監督、引率教員、外部指導者、アルバム写真業者(職員の代行可)、役員(補助員含む)のみとする。

<手続き>

選手、マネージャー、監督、引率教員、外部指導者→参加申込書 アルバム写真業者、役員(補助員)→【別紙6】入場許可申請書
--

- (3) 発熱者37.5度以上は入場させない。
- (4) 入場者は会場内において、競技時、練習時、食事時を除いてマスクを正しく着用する。
- (5) 食事の際など、マスクを外す場合は発声や会話をしない。
- (6) 外履きは袋に入れ自分で管理し、下駄箱は使用しない。
- (7) 試合が終了した選手は、審判の仕事が終了後、引率者とよく相談の上、保護者の協力を得ることが可能であれば帰宅に努める。(事前に引率者と保護者と確認)
- (8) 競技時以外の時間帯はマスクを着用する。
- (9) 適宜、手洗いやアルコールによる手指消毒を行う。
- (10) ゴミはすべて各自で持ち帰り処分する。
- (11) 更衣室の利用は一度に4人までとする。付き添いによる入室は禁止とする。
- (12) 更衣室の使用については更衣のみとし、速やかに着替えを行う。
- (13) ホテル・旅館等に宿泊する場合は、大部屋を避けて、シングルあるいはツインの部屋を手配するよう努める。
- (14) 移動手段として貸切バスを利用する場合等は、利用者は最小限の人員とし、できるだけ間隔を空けて座るよう配慮する。また、乗車中もマスクは着用すること。

3. 競技運営上の具体的対策

- (1) 開閉会式は中止する。
 - ・当日の監督会議は行うが、競技説明、審判方法等は関係書類を事前に配布する
 - ・棄権する場合は、監督が入館後速やかに本部に申し出ること
- (2) 状況により、入場・受付時間を指定する。
- (3) 状況により、競技試合時間を短縮する場合がある。
- (4) 状況により、学校対抗団体戦実施においてベンチ等を配慮する場合がある
- (5) 主審は敗者審判で、線審は対戦校同士で行う。
- (6) 遮光性、風の影響に配慮の上、可能な限り窓や扉を開放して行う。
- (7) 換気の悪い密閉空間にしないよう、定期的に外気を取り入れる換気を行う。
- (8) 試合後の審判用具(筆記用具・ボード・ストップウォッチ・カゴ)の消毒は必ず行う。
- (9) 共用スペーストイレ・更衣室・食事場所等および共有物品については、定期的に消毒

を行う。

- (10) 会場出入り口やトイレ手洗い場には、アルコール消毒薬等を設置する。
- (11) 「北海道スタイル」安全宣言を掲示し啓発を行う。

4. 競技関係者及び競技中の具体的な対策

- (1) 競技者は競技に必要なもの以外に以下のものを必ず持参すること。
□バッグ(ラケットケース可) □タオル □マスク(複数枚) □マスクを保管する袋
□靴袋(下足入れ) □黒色の鉛筆かボールペン(勝者サイン用)
- (2) コートへの入退場時は一定の距離を保った上で、指定の時間にコートに入る。
- (3) 試合前のあいさつ・トスの際は十分な距離を取って行う。(ショートサービスライン上)
- (4) 試合前後の審判と選手の握手は行わない。
- (5) 意識的に試合中の声出しをしない。
- (6) コートサイドには各自バッグ等を持参し、飲み物、筆記用具も各自のバッグに収容する。
- (7) 床の汗拭きはモップもしくは所定の用具を使用し行う。
- (8) 飲料を万が一こぼしたときには雑巾で拭き取る。(自身のタオルを使用しない)
- (9) シューズの裏を手で拭くことはしない。
- (10) プレーヤー同士や監督・コーチ等とハイタッチ等の接触を行わない。
- (11) ラケットやタオル等の貸借をしない。
- (12) 汗をコート・コートサイドに投げることは絶対にしない。(不品行な振る舞いとして警告の対象でもある)
- (13) コーチングは一定の距離を保った上で、必要最小限に短時間で行う。
- (14) シャトルの交換は、主審が選手が一定の距離にきたら投げて渡す、あるいは選手のラケットのストリングエリアに置いて渡す。
使用済みシャトルについては、選手が回収ボックス(カゴ等)に入れる。
- (15) 観戦は指定された場所や席、または距離を開けて行い、席の移動はしない。
- (16) 観戦中の応援は、声を出さずに拍手のみ行ってもよい。
- (17) 主審、線審、得点係等は、マスクを着用する。(水分補給を促し、熱中症対策を講じる)
- (18) 得点係は、手袋(ビニール)を使用する。
- (19) 審判のコールは、必要最小限とする。
主審: 「スコア」「プレー」「フォルト」「レット」「ゲーム」「コレクション」等で行う。
線審: 指定の合図を主審に向けて行い、「アウト」のコールをしない。
※主審は線審の合図を、必ずアイコンタクトで確認しあうこと
※主審が線審の判定がわからない場合は線審を呼んで確認すること(一定の距離を保つ)
- (20) 試合後のコートのモップがけ、審判台・椅子(ベンチ・コーチングシート・線審および得点係)の消毒は必ず行う。(使用者に協力をしてもらう)

5. 当日の緊急対応について

大会期間中に感染が判明、もしくは感染が疑われる症状が発生した場合には、大会レフェリーに報告のうえ、開催地の行政機関および担当保健所の指示のもと、然るべき対応をとることとする。また、感染拡大を防ぐために下記の対応を行うこととする。

- (1) 大会期間中に体調不良等で試合を棄権する場合は、来場せず大会事務局へ連絡すること。レフェリーへ報告の後、場合によっては保健所の指示を受け該当校と連絡をとり対応する。
- (2) 入場後、体調不良等が発生した場合は、監督を通じて大会本部へ連絡する。
- (3) 感染が疑われる症状(発熱、咳、咽頭痛等)がある場合には、別に用意する控室等で隔離のうえ、待機とすることもある。
- (4) 感染者および濃厚接触者と特定された者の入場および出場は認めない。また、感染が疑われる症状がある場合も同様とする。
- (5) 大会開催期間中に発熱等の症状が確認された場合は、保護者に引き取りに来ていただくことを原則とする。
- (6) 感染拡大が懸念される場合には、関係各所と協議のうえ、試合の途中であっても中止とする場合がある。
- (7) 入場者が大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに大会事務局へ連絡すること。